

中間財務諸表

2019年度中間期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）、2020年度中間期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の中間財務諸表は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの中間監査を受け、適正である旨の中間監査報告書を受領しております。

科 目	2019年度中間期 (2019年9月30日現在)	2020年度中間期 (2020年9月30日現在)
現金預け金	145,315	123,785
商品有価証券	0	—
金銭の信託	7,850	7,957
有価証券	365,494	354,288
貸出金	1,051,757	1,078,740
外国為替	2,420	2,406
その他資産	7,728	7,321
その他の資産	7,728	7,321
有形固定資産	16,220	16,677
無形固定資産	661	548
前払年金費用	1,400	2,220
繰延税金資産	—	505
支払承諾見返	2,652	3,087
貸倒引当金	△ 4,303	△ 4,140
資産の部合計	1,597,199	1,593,399

科 目	2019年度中間期 (2019年9月30日現在)	2020年度中間期 (2020年9月30日現在)
預金	1,346,897	1,393,857
譲渡性預金	48,418	32,455
コールマネー	723	793
債券貸借取引受入担保金	46,321	25,396
借入金	50,200	50,200
外国為替	0	—
その他負債	14,132	7,317
未払法人税等	193	161
リース債務	370	287
資産除去債務	114	117
その他の負債	13,453	6,750
賞与引当金	642	636
役員賞与引当金	14	11
退職給付引当金	92	79
睡眠預金払戻損失引当金	476	437
偶発損失引当金	86	109
繰延税金負債	2,261	—
再評価に係る繰延税金負債	1,665	1,665
支払承諾	2,652	3,087
負債の部合計	1,514,586	1,516,045
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	8,208	8,208
資本準備金	8,208	8,208
利益剰余金	52,078	53,260
利益準備金	1,791	1,791
その他利益剰余金	50,287	51,469
固定資産圧縮積立金	5	4
別途積立金	21,000	21,000
繰越利益剰余金	29,282	30,465
自己株式	△ 418	△ 418
株主資本合計	69,869	71,051
その他有価証券評価差額金	10,170	3,679
土地再評価差額金	2,413	2,413
評価・換算差額等合計	12,584	6,093
新株予約権	159	208
純資産の部合計	82,613	77,353
負債及び純資産の部合計	1,597,199	1,593,399

科 目	2019年度中間期 (2019年4月 1日から 2019年9月30日まで)	2020年度中間期 (2020年4月 1日から 2020年9月30日まで)
経常収益	10,387	11,046
資金運用収益	7,727	7,647
（うち貸出金利息）	(5,613)	(5,524)
（うち有価証券利息配当金）	(2,064)	(2,087)
役員取引等収益	1,104	1,119
その他業務収益	835	1,249
その他経常収益	719	1,030
経常費用	8,918	9,279
資金調達費用	260	168
（うち預金利息）	(244)	(160)
役員取引等費用	851	865
その他業務費用	659	1,060
営業経費	6,459	6,391
その他経常費用	686	794
経常利益	1,469	1,766
特別利益	9	—
特別損失	241	6
税引前中間純利益	1,237	1,760
法人税、住民税及び事業税	326	253
法人税等調整額	174	243
法人税等合計	500	496
中間純利益	737	1,263

中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位 百万円)

	株主資本										株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計		
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	10,000	8,208	—	8,208	1,791	5	21,000	28,755	51,552	△ 467	69,293
当中間期変動額											
剰余金の配当								△ 237	△ 237		△ 237
固定資産圧縮積立金の取崩						△ 0		0	—		—
中間純利益								737	737		737
自己株式の取得										△ 0	△ 0
自己株式の処分			△ 9	△ 9						49	39
自己株式処分差損の振替			9	9				△ 9	△ 9		—
土地再評価差額金の取崩								35	35		35
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)											
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	△ 0	—	527	526	48	575
当中間期末残高	10,000	8,208	—	8,208	1,791	5	21,000	29,282	52,078	△ 418	69,869

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	8,986	2,449	11,436	176	80,906
当中間期変動額					
剰余金の配当					△ 237
固定資産圧縮積立金の取崩					—
中間純利益					737
自己株式の取得					△ 0
自己株式の処分					39
自己株式処分差損の振替					—
土地再評価差額金の取崩					35
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	1,184	△ 35	1,148	△ 16	1,131
当中間期変動額合計	1,184	△ 35	1,148	△ 16	1,706
当中間期末残高	10,170	2,413	12,584	159	82,613

当中間会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

（単位 百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			利益剰余金合計		
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	10,000	8,208	—	8,208	1,791	4	21,000	29,439	52,234	△ 418	70,025
当中間期変動額											
剰余金の配当								△ 237	△ 237		△ 237
固定資産圧縮積立金の取崩						△ 0		0	—		—
中間純利益								1,263	1,263		1,263
自己株式の取得										△ 0	△ 0
自己株式の処分			△ 0	△ 0						0	0
自己株式処分差損の振替			0	0				△ 0	△ 0		—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）											
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	△ 0	—	1,026	1,025	0	1,025
当中間期末残高	10,000	8,208	—	8,208	1,791	4	21,000	30,465	53,260	△ 418	71,051

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	403	2,413	2,817	185	73,028
当中間期変動額					
剰余金の配当					△ 237
固定資産圧縮積立金の取崩					—
中間純利益					1,263
自己株式の取得				△ 0	0
自己株式の処分					0
自己株式処分差損の振替					—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	3,276	—	3,276	23	3,299
当中間期変動額合計	3,276	—	3,276	23	4,325
当中間期末残高	3,679	2,413	6,093	208	77,353

1 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他の有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他の有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

有形固定資産は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物：8年～50年

その他：3年～20年

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。

上記以外の債権については、主として正常先と要注意先は今後1年間の予想損失額、要管理先と破綻懸念先は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は正常先と要注意先は1年間、要管理先と破綻懸念先は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき算出した率と、景気循環の平均期間を反映したより長い期間の貸倒実績率の平均値を比較して、高い方の率に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は4,021百万円であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大やそれに伴う経済活動停滞による影響は、当事業年度中は続くものと想定し、当行の貸出金等の信用リスクにある程度影響があるとの仮定を置いております。

しかしながら、同感染症は政府の対策などにより徐々に収束するものと考えられ、与信費用への影響は軽微であると想定されることから、貸倒引当金に追加計上しておりません。

なお、上記仮定の不確実性は高く、今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況により経済環境が悪化した場合には、当事業年度以降の財務諸表において当該貸倒引当金は増加する可能性があります。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への業績連動型報酬の支払いに備えるため、役員に対する業績連動型報酬の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日から損益処理

(5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、利益計上した睡眠預金について預金者からの払戻請求に基づく払戻損失に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(6) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度等に伴う費用負担金の支払いに備えるため、過去の負担実績に基づく負担支払見込額を計上しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

2 中間貸借対照表関係 (2020年9月30日現在)

1. 関係会社の株式の総額

株式 35百万円

2. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額 414百万円
延滞債権額 17,048百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3カ月以上延滞債権額 38百万円

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 112百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 17,614百万円

なお、上記2. から5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は

(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

4,988百万円

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	25,380百万円
担保資産に対応する債務	
債券貸借取引受入担保金	25,396百万円
上記のほか、為替決済、歳入代理店等の取引の担保として、次のものを差し入れております。	
現金預け金	5百万円
有価証券	74,102百万円
その他の資産	5,000百万円
また、その他の資産には、保証金・敷金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。	
保証金・敷金	170百万円

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	176,533百万円
うち契約残存期間が1年以内のもの	162,024百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

9,660百万円

3 中間損益計算書関係（2020年4月1日～2020年9月30日）

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金戻入益	145百万円
償却債権取立益	233百万円
株式等売却益	625百万円

2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

有形固定資産	263百万円
無形固定資産	117百万円

3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金償却	420百万円
株式等売却損	111百万円
株式等償却	203百万円
金銭の信託運用損	22百万円

4 有価証券関係

子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 子会社株式26百万円、関連会社株式9百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価を記載しておりません。